

平成30年7月31日を以て齊藤慎所長が退任し、8月1日より林宏昭所長が就任しました。
本ページで林所長からの就任あいさつを、次ページで齊藤前所長からの退任あいさつをご紹介します。

新所長 就任あいさつ

平素は、当センターの事業推進に格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

私は、8月1日からマッセOSAKAの所長に就任いたしました。

長く中央集権的行財政システムを採用してきた日本は、2000年の地方分権一括法の施行から地方分権の推進へと大きく舵を取り、現在は実践の段階に入っています。また、地域の活性化とその好循環の維持の実現を目指す地方創生が2014年に掲げられました。こうした状況下で、自治体は自ら政策を立案し自らの責任で実行する政策自治体への変革が求められています。

分権実現・地方創生のためには、自治体におけるサービス体制の整備が必須で、財源、権限、人材の確保・育成などが必要とされます。

当センターでは、府内市町村が自律的な行政運営を行うために必要な人材育成の支援を行うとともに、自らの力で、難しい問題を解決できるヒントとなるような政策研究の築盛を行い、地方分権の推進に寄与したいと考えています。

そのため、

- (1) 研修事業については、先進的な企画に取り組み、市町村からの相談に対し常に的確なアドバイスができる団体をめざします。
- (2) 研究事業については、大学やシンクタンクとの連携を強化し、受託事業を手掛けることのできる団体をめざします。
- (3) センター自身が、人材育成担当スタッフ養成の場となり、市町村から受け入れたセンターで働く職員が、将来、市町村で核となり活躍できうる人材となるよう支援します。

以上3つを基本的な考え方として、広域研修研究機関としての役割を果たしてまいります。

今後ともみなさまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

マッセOSAKA所長・関西大学経済学部教授 林 宏昭



前所長 退任あいさつ

7月末をもっておおさか市町村職員研修研究センター（愛称マッセOSAKA）所長を退任することになりました。手元の資料では、2005年8月に就任した記録がありますので、13年もの長期間務めさせてさせて頂いたことになるかと思えます。年間延べ5,000人の市町村職員に有益な研修・研究の機会を提供する大規模な研修組織に成長したことは、マッセOSAKAにこれまで在籍された多くの皆様方のご努力の成果であり、本当に頭の下がる思いです。

創設以来蓄積されたノウハウと人的ネットワークは膨大なものです。ノウハウの一部は膨大な刊行物やホームページ情報等に結実していますし、また研究を通じて作成されたe-learning用CDも貴重な資産です。しかし、なんといってもマッセOSAKAの財産は活動を通して形成された人的ネットワークとそれを構成する人々の知識のレベルアップにあるといえます。現役スタッフと過去のスタッフなどの人的蓄積（具体的にはマッセ倶楽部）、府内市町村人事課等との連携、市町村職員受講者・研究グループ等の人的蓄積に加え、講師陣等の蓄積は他の機関の追随を許さないものと思われます。また、大学等との連携も進みました。これらによる何よりの成果はマッセOSAKAを通じた市町村職員のステップアップといえます。

所長としてどれほどマッセOSAKAのお役に立てたか自信はありませんが、私個人としては、皆様方の力で作ってこられたマッセOSAKAに佳き思い出がありません。個々にお名前は挙げませんが、マッセOSAKAに在籍して頂き、その間にさまざまな工夫をして、研修・研究を充実・高度化して頂いたことに対して御礼の言葉しかありません。マッセOSAKAのために働いて頂いたことが、その方々にとってプラスのキャリアとなっていることを願うのみです。

マッセOSAKAは常に前向きであって欲しいと願っております。1995年10月の開設以来23年が過ぎようとしており、アバウトに言えば第3段階に進行していると考えて良いかと思えます。この間に市町村を取り巻く社会経済環境は大きく変わりましたし、現在は加速度的に変化が大きくなっています。ICT（情報通信技術）という言葉はもはや珍しくもありませんし、AI（人工知能）が今後の世の中と仕事等をどこまで変えるのか想像もつきません。単純な事務は機械が代替していくものと思われますので、研修内容も変わらざる得ない部分もあるかと思えます。しかし、組織が人によって構成される限り、マッセOSAKAの大きな役割である人的ネットワーク構築の重要性は続くような気がします。

これまで培ってきたノウハウを活かして、このような大きな環境変化に対応してマッセOSAKAが、研修組織のトップランナーとして、さらなる成長を遂げられることを祈っております。

マッセOSAKA前所長・大阪学院大学経済学部教授 齊藤 慎



特別研修「政策形成実践研修」を実施しています

◆政策形成実践研修 平成30年6月7日～10月26日（12日間インターバル研修）

講師：関東学院大学法学部 地域創生学科 准教授 牧瀬 稔 氏

本研修は、大阪府内の自治体を調査・検討し、フィールドワークなどを通じ、モデル団体の地域課題の解決に向けて、より実践的な政策立案について学ぶ目的で、平成28年度より実施しています。

今年度のモデル団体は「門真市」です。

受講生は平成30年10月26日（金）に宮本市長をはじめ、門真市職員の前で政策案を提言します。

第1回（6月7日）は、牧瀬氏より「問題発見の視点」についての講義がありました。講義終了後、受講生は2チームに分かれ、それぞれチーム会を行いました。

第2回（6月8日）は、研修会場をモデル団体である門真市へ移し、宮本市長のご講話、河合企画財政部長より、門真市の概要説明を頂戴しました。

午後からはフィールドワークを実施しました。また、当日多数のプレスの方が取材してくださり、現時点では、地域情報誌月刊アゴラ7月号に取り上げられました！



（写真前列左：マッセ OSAKA 所長、牧瀬講師、門真市長、門真市企画財政部長 写真後列：研修受講生）

研修情報見本市を開催しました

8月31日（金）に「平成30年度研修情報見本市」を開催しました。この「見本市」は、研修支援の一環で実施しており、研修専門機関等から、行政職員向け研修として特におすすめの研修について、カリキュラム等をご紹介いただき、今後の研修を企画・立案する際の参考にしていただくものです。

1 機関45分という限られた時間でしたが、研修の内容をぎゅっと凝縮し、プレゼンテーションをしていただきました。各機関とも特色あるテーマをご用意いただき、全体を通し幅広いテーマを扱った見本市となりました。

今年は、府内市町村を中心とした37団体から50名の研修担当者様にご来場いただきました。残暑の厳しい中、お越しくくださった皆様、ありがとうございました。

皆様からのご意見・ご要望を踏まえ、今後も皆様に活用していただける事業を企画していきたいと思っております。



当日の様子

平成30年度研修情報見本市プログラム

| No | テーマ | 研修専門機関名 |
|----|--|-----------------|
| 1 | 全国の事例から学ぶ、政策形成研修 | 株式会社行政マネジメント研究所 |
| 2 | ディズニーランドやUSJで学んだ「活用できるマニュアル」の作り方 | 一般社団法人日本経営協会 |
| 3 | 楽しく学べる！若手リーダーの問題解決力向上研修～慶應ビジネススクール“ケースメソッド”で新リーダーを養成！～ | 有限会社コノジャパン |
| 4 | 管理職のためのメンタルヘルスマネジメント（二・三次予防）～メンタルヘルス不調者への対応及び復帰支援～ | ビジネスサポート株式会社 |
| 5 | ロジカル・チーミング～モチベーション高く、自ら動き出す組織を作るための新しいチームワーク理論～ | 株式会社アイシーエル |
| 6 | 元フロアマネージャーが指南する市民対応エキスパートの「クレームを恐れない6つのステップ」 | 株式会社日本マネジメント協会 |

自治体トークン（地域コイン）で地域経済活性化!! 「地域通貨を導入した地方創生研究会」がスタートしました

昨今、ふるさと納税やクラウドファンディングなどの寄附金が、まちづくりや福祉など様々な地域課題を解決するために使われています。今後、地域に流通した寄附金を地域内で循環させることで、地域経済を活性化し、持続可能な社会を促す仕組みが大切ではないでしょうか。

そこで今年度は、地域経済活性化の切り札になり得る地域通貨の可能性について、5月から研究活動をスタートしました。

過去に地域通貨を活用した試みはブームになったものの、定着しませんでした。しかし当時と大きく異なる点は、ICTなど技術の進展により、導入コストが低く済むうえ、スマホ決済（キャッシュレス）が可能となるなど利用者と事業者の双方にとって利便性が良くなったことです。現在では、地域密着型の電子決済サービスを使った地域通貨の発行が各地で相次いでいます。

研究会の指導助言者には、神戸大学大学院経営学研究科の保田 隆明 准教授、オブザーバー（アドバイザー）には、ふるさと納税のポータルサイトでトップシェアを占める株式会社トラストバンク執行役員の飯田敦氏を迎え、各市から集結した5名の研究員とともに、平成30年度の1か年で研究を行います。

研究員名簿（5団体5名）

| | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 豊中市 | 石田 千穂 | 守口市 | 山田 舞 |
| 摂津市 | 尾川 一平 | 貝塚市 | 岡崎 真也 |
| 八尾市 | 村田 恵美 | | |



保田 隆明 氏
(神戸大学大学院経営学研究科准教授)

第1回研究会では、基調講義として保田准教授から、過去の地域通貨がどうして流通しなかったか、そして、これからの地域通貨の可能性や現在の成功事例などをご講義いただきました。さらにオブザーバー（アドバイザー）の飯田氏からは、株式会社トラストバンクが実施に向けて検討している「ふるさとトークン」について事例発表をいただきました。研究員が各々抱える地域課題の解決に向け、今後の方向性を考えるうえでたくさんのヒントをいただきました。



第2回研究会では、ゲストスピーカーをお招きし、木更津市の鈴木氏から「アクアコイン」について、サイテックアイ株式会社の善生氏から「めぐりんマイル」について事例発表をいただきました。自治体と民間がそれぞれ運営主体となっているケースを学ぶことで、自治体としての取り組み方、関わり方を考えることができました。

第3回研究会でも、ゲストスピーカーをお招きしました。ケイスリー株式会社の森山氏から、地域通貨の理論的概念についてご講義いただき、オブザーバー（アドバイザー）の飯田氏からも、ふるさと納税に絡む電子感謝券などを中心に事例発表をいただきました。地域通貨の歴史を知ったうえで、現代に見合った地域通貨のポイントを考える機会になり、非常に有意義な時間となりました。

第4回研究会では、積み重ねた事例を振り返り、論点整理を行いました。地域が抱える課題解決に向けて、地域通貨を活用したソリューションを提案するという、今後の研究の方向性を確認しました。今後の研究活動に是非注目してください！

今後は、国内先進地視察等も実施し、具体的な手法について調査します。年度末の成果報告会をお楽しみに！



研究活動の様子

「働き方改革を踏まえた組織マネジメント研究会」がスタートしました

育児や介護などさまざまな事情を抱えながら、限られた職員数であらゆる住民ニーズに応えるには、従来の働き方を大きく変えていかなければなりません。国を挙げて推進されているように、働き方改革のメニューとして、長時間労働の是正や多様な働き方の実現は喫緊の課題と言えます。今まさに多様化する個人の働き方に合わせた組織体制をとりつつ、生産性を向上する組織改革が重要となっています。

本研究会では、前年度の「自治体職員の働き方改革研究会」の研究成果を踏まえ、働き方改革の手法を組織マネジメントに活かすうえで、どのような視点が必要か、どのような手法が有効であるかについて調査・研究を行います。

指導助言者に財務省財務総合政策研究所研修部長 兼 人事院公務員研修所教授の高嶋直人氏を迎え、各市より集結した5名の研究員とともに、平成30年度の1か年で研究を行います。

研究員名簿（5団体5名）



| | |
|-------|-------|
| 茨木市 | 辻村 真也 |
| 吹田市 | 田中 友梨 |
| 河内長野市 | 安部 正俊 |
| 富田林市 | 樋渡 貴幸 |
| 熊取町 | 義本 正彦 |



高嶋 直人氏
(財務省財務総合政策研究所研修部長
兼 人事院公務員研修所教授)



第1回研究会では、高嶋氏より、「働き方改革はマネジメント改革」というテーマで基調講義をいただきました。働き方改革が『働かせ改革』になっていないか、働き方改革を阻むものはなにか、公務組織の制約はなにか、など様々な切り口から詳細な解説がありました。

当面はモチベーションをテーマとした研究を前提とし、ゲストスピーカーによる講義や府内自治体における調査等を通して、様々な切り口から働き方改革と組織マネジメントへの理解を深める予定です。

今号は
立田&村上です！

(立田) 趣味に生きる立田です、こんにちは。

趣味の中でも、免許皆伝レベル(?)の趣味の極意をつぶやきます。

マッセOSAKAは、“研修受講生同士が趣味でつながるネットワーク”の構築も支援します！

(きつとね)

釣り・・・魚を追おう、鳥に聞こう。釣りたい魚は、みんなが狙う。

自転車・・・漕ぐか、漕がないかは、自分次第。それを支えるのは、元気な胃腸。

(村上) 上の記事を書いている立田さんとは対照的にインドアな村上です。詩的(かつ私的?)な

つぶやきの後で恐縮です。この夏は暑さから逃れ(?)何度か映画館に足を運びました。

本編も楽しみなのですが、予告を見るのも好きです。予告を見ていると、見たい映画が

次々と増えてくるんですよね。というわけで、秋からも映画館に通うことになりそうです。

研修でお会いした際には、ぜひおすすめ映画を教えてください！

☆☆☆
スタッフの
つぶやき
Vol.16



目まぐるしく変化する時代の中で、地方行政、自治体職員が目指すべき方向性について、学識者・行政経験者などの著名人に、政策提言を頂きます。

【第15回】

財務省
財務総合政策研究所研修部長
人事院
公務員研修所教授
高嶋 直人 氏



効果の上がる不祥事防止対策（後編）

意志力強化こそが職員の不祥事防止に有効です。意志力強化の具体的方法について話を続けます。

1-1. ハラスメント

ストレスが高くなると人の意志力は弱くなります。とういことは職場内のストレスレベルを極力下げることが不祥事防止に繋がるということになります。ハラスメントが行われている職場は不祥事の温床です。人は常に自分の心のバランスを取りながら生きています。ストレスをうまく解消出来れば良いのですが、過度なストレスは解消しきれず人とのトラブルを起こし、酒やギャンブルへの依存に走らせ、生活が乱れて不祥事を起こしやすい状況を作ってしまう。

ハラスメントを受けた被害者の中には残念ながらハラスメントの加害者になる人もいます。いじめの加害者が実は過去において「いじめられた」つらい経験の持ち主であるというのです。これも自分の中で心のバランスをとる行為と解釈出来ます。

また例え「自分が受けた辛い経験を人には味合わせたくない」と強く決意していたとしても、残念ながらハラスメントの被害者はハラスメントの

加害者となりやすいとされています。それは、ハラスメントに耐えるため自分でも気づかないうちにハラスメントに対する感度を鈍らせ、自分では過去自分が受けたハラスメントよりかなり優しい対応をしたつもりでも標準より厳しいレベルに留まることがあるからです。つまり、職場のハラスメントを放置していると、ハラスメントは伝染しハラスメントに対する職場全体の感度も鈍らせ、職員のストレスレベルを全体に高めます。それが職員の意志力を下げ不祥事を起こしやすくなる。このような負の連鎖が存在するのです。

ハラスメントのない職場作りが、職員のストレスレベルを下げ不祥事防止に効果的なのです。

1-2. モラル・ライセンシング

人には「モラル・ライセンシング」という心理があります。それは、自分で「良いことをした」と思うと「悪いことをしても構わない」と思う可能性が高まるというものです。意外かも知れませんが、実験で実証されています。人は、自分の中でバランスがとれてさえいればよいと発想するからです。

これは、厳しい自己犠牲を強いると自分にご褒美をあげても許されると発想するということです。長時間労働など厳しい職場環境下で働くと、多少のことは許されると発想しがちになるのです。以前問題となった居酒屋タクシー事例は、それで一部説明可能です。手当も厳しくカットされた中で深夜2時3時まで仕事をし、仮眠をとれる時間はタクシーの中だけ。そんな環境下で、馴染みの運転手さんのタクシーを予約する。運転手さんも馴染み客を確保するためビールを提供する。そして差し出されたビールを「こんなに厳しい環境下で仕事をしたのだから、この程度のことは許される」と思ってしまう。決して正当化されるものではありませんが、このような背景が想像出来ます。

このモラル・ライセンシングという心理原則を踏まえれば、職員が代償を求めるほど厳しい環境に置くことは不祥事発生のリスクを高めるということになります。「働いても、働いても報われない」と思うと、「働いた自負が逆に不祥事を起こす免罪符」のように感じてしまうのです。

一方的な給与カットには、このような心理的なダメージも含まれることを理解すべきです。良いことをした職員にはしっかりと報いる。正しいマ

ネジメントが不祥事防止に繋がるのです。

1-3. 自暴自棄

人には一度ダメになるともっとダメになりたくなるという不思議な心理があります。もう自分はどうなっても良いと自暴自棄になるのです。このことから一度失敗すると二度と復活の可能性がなくなるような人事慣行は不祥事を起こす可能性の高い職員を増やすと言えます。失敗した職員を早期にフォローするマネジメント、再チャレンジできる人事が不祥事防止に効果的と言えます。

2. 厳罰化について

前編からここまで、意志力をキーワードに人の複雑な心理を踏まえた不祥事防止策についてお話しをしてきました。最後に、厳罰化の効果について一言触れておきたいと思います。

ルールの厳罰化は、不祥事防止対策の中の常連です。しかし、「ばれないと思ってやってしまった」タイプの不祥事にはそもそも効果がありません。そして、本当に効果があるかについても疑問があります。例えば、荒れた高校は決して校則が緩い訳ではありません。生徒の行動を厳しく締め付けることが必ずしも品行方正な生徒を作らないことは既に証明されています。

外国の公務員制度をみても、汚職など不祥事の発生率の高さと規定の厳しさの間には相関がありません。現に汚職大国と言われる某国の規定はとても厳しいものです。国際的にみて我が国公務員の清廉は評価されています。我が国の場合、「厳しい規定」と「清廉さ」といった二つの事実があるため、より清廉さを求めるにはより厳しい規定をと発想しがちです。

ただ、我が国の不祥事防止対策は、他の先進国の不祥事防止対策とその内容が大きく異なっています。他の多くの先進国の公務員制度では、「行動規範」を定めその規範の理解、徹底を図り、公務員として良い行動をとることを求めます。その結果、民間企業と同じく経営課題となり、日々のマネジメントや人財育成と連動します。それに比べ、我が国は「行動規範」ではなく、「禁止規定」で厳しく職員を縛ります。これを子供が悪いことをしたとき、どのように躰をするかに例えるとこうなります。「行動規範」の場合は、「そういう時は、

こうして欲しい」と行動自体を反省の対象とします。一方、「禁止規定」の場合は「悪いことをすると、おまわりさんに捕まるよ」と行動自体の反省ではなく損得勘定で行動を判断するよう求めることとなります。どちらの教育方法が子供のためでしょうか。

また、人は応報性という心の本質的な性格を皆持っています。「信頼されれば裏切れない」とか、「恩を仇で返せない」と言う心理です。これも親子関係に例えると理解出来ます。犯罪を起こした人の中には、小さいころ親の愛情を十分受けることが出来なかった人がいます。(勿論、立派に育つ人が大半です。誤解無きようお願いします。)[親の期待に応えたい]、「親を悲しませたくない」という思いが悪い誘惑に対して思いとどまらせることに働くことは確かなように思います。

組織でも同じで、人間関係が円満で風通しの良い職場だと、「皆に迷惑をかけられない」、「仲間を裏切れない」という気持ちになり、不祥事を起こす気持ちにブレーキがかかります。

自己肯定感や関係性といったモチベーションの主な要素は、不祥事防止の重要な要素でもあるのです。ルールの厳罰化、そして禁止規定だらけのルールを周知徹底するだけでは、自己肯定感を下げ、組織へのエンゲージメント(愛着心、個人と組織が一体となり、双方の成長に貢献しあう関係)をじわりじわりと下げます。

不祥事防止対策を「対策を講じたというアリバイ」ではなく、効果的なものにするには、厳罰化一辺倒の政策には副作用があることに留意すべきです。

一見不祥事とは関係がないように思えるモチベーションマネジメントを含む人財マネジメントスキルの向上が実は職員の自己肯定感や組織へのエンゲージメントを高め、不祥事防止に繋がる。その拙文がそのことに気付くきっかけになれば幸いです。

◇ 執筆者Profile ◇

人事院研修指導課長、総務課長、立命館大学大学院教授などを経て現職。自治大学校、市町村アカデミー、JIAM、マッセOSAKA、東北自治研修所、岐阜県、佐賀県、京都市、大阪市等において「マネジメント」、「働き方改革」、「公務員倫理」などの研修講師を務める。著書に、「読めば差がつく！若手公務員の作法」(ぎょうせい)。月刊ガバナンス(ぎょうせい)に「人財マネジメント講座」連載中。

ココだけの… こぼれ話



本コーナーは、日常生活をイキイキと活動している現職の行政関係者を取り上げ、どのように仕事に活かしているかをお披露目していただくコーナーです。執筆者は、マッセOSAKAの職員が研修や交流会などで出会った方や、マッセOSAKAに派遣されていた先輩方をお願いしております。

第9回は、吹田市総務部広報課の山根さんのこぼれ話です！

「モチベーション向上の仕掛けづくり」の巻

吹田市総務部広報課 山根 渉さん

北大阪地域と兵庫県の阪神地域の広報担当職員を中心に組織し、各広報担当職員が広報に関する知識や技術などを自主的に向上させるための研修会「北大阪・阪神地域市町広報担当者自主研修会」を開催しています。

平成28年5月の第1回目以来、これまで5回開催しています。カメラの使い方や紙面のレイアウトなど、広報活動に必要なスキルを学んでいます。

この会は元々、豊中市の広報広聴課にいらっしゃった村井さんが中心となり発足したものです。広報に関して、複数自治体による主催者会議や県による市町村職員向け研修会といった場が府内にはありません。無いことを嘆いていても仕方がないので、できることからやってみようと、実務担当者の技術力向上と交流を目指してスタートしました。昨年に村井さんが異動で広報担当を離れることになり、私が会長を引き継ぐことになりました。

これまでの研修会では、広報活動で実績を上げられている自治体職員の方を講師に招き、写真撮影のコツや文章の書き方、特集の企画法などを学びました。知識が得られることに加え、凄腕広報マンの熱意に刺激され、自分も「読まれる広報紙を作るぞ！」と奮起する機会になりました。

自治体の広報活動と言えば広報紙の発行がメインですが、情報通信技術の進歩によって今までとは違うメディアを活用できるようになり、広報誌を読まなかった人へ行政情報を届けられる可能性が広がりました。今後はウェブサイトやSNSの活用や、IT化が進む環境下での広報紙の役割なども研究できたらと考えています。現場の担当者同士で情報を交換し刺激を与え合うことを通じて広報・情報発信の改善や革新を生み、市民の皆さんの行政の制度施策の利用や市政への参加・参画が進むための場にしていきたいです。



研修会の様子



一眼レフの使い方も学びます



一関市の伝説の広報マン、畠山さんを講師に迎えて



新規研修実施レポート

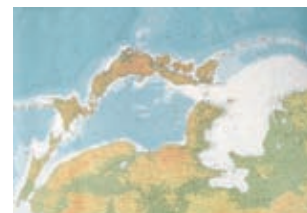
○情報感知力向上研修 6月5日・6日開催

講師：株式会社行政マネジメント研究所 客員講師 井上 善海 氏

本研修は、変化する時代において重要な「情報感知力（多数の情報から必要な情報を知覚する力）」と、地域住民の要望を政策に活かし魅力溢れる地域を創発する「創発力」について学ぶことを目的に実施しました。

講義では、情報感知の基本となる論理的思考力の手法を始め、情報感知に必要な様々なテクニックを学びました。グループ演習では、BD（ビジネスデザイン）法を用いて論理的な課題解決手法を学びました。その成果から、情報感知のためには「コミュニケーション」が大きな役割を果たすことを理解しました。

受講者の皆様からは、「情報感知に取り組む際には、相手とのコミュニケーションが前提にあることが分かった」「講師のアイスブレイクが豊富でユーモアに溢れており、集中力を保ちながら楽しく受講できた」など、大変好評でした。



この地図は世界のどこでしょう？

情報を感知するためには、「視点を変えてみるごと」が大切だよ！



○RESASを使った地域情報分析研修 7月31日・8月1日開催

講師：株式会社インソース 長沼 裕介 氏

本研修は、RESASを活用するためのデータ分析・統計学の基礎知識を身につけるとともに、パソコンを用いて、RESASの基本操作を学び、データに基づいて未来を考えるプロセスを習得することを目的に実施しました。

全体的にワークを織り交ぜた構成で、RESASを使った地域特徴分析の演習や、データから各自治体の課題を分析し、必要な政策を考え共有しました。ワークやディスカッションでは、参加者同士打ち解けた雰囲気の中たいへん盛り上がり、活発な意見交換も行われました。

受講者の皆様からは、「繰り返し分析でRESASへの抵抗感がなくなった」「他の自治体の改革を考えるには、一番良い実習だと感じた」など、大変好評でした。



○自治体職員の専門性とキャリアプランニング研修 7月18日開催

講師：大阪市立大学大学院 都市経営研究科 教授 永田 潤子 氏

本研修は、自治体職員としての専門性及び必要とされるスキルとは何か探り、自身のキャリア形成について整理し、併せてライフワークバランスの向上を図り、自らの能力向上及びこれからの公共経営の目線を養うことを目的に実施しました。

講義では受講生に多くの質問が投げかけられ、組織、個人のキャリア（＝ライフキャリア）など、これまで漠然と捉えてきたことを考えながら整理しました。

受講者の皆様からは「漠然と勤続年数を重ね、今後のビジョンや自分について疑問に感じていた部分がクリアになり、今後の自分のキャリアについて考えるきっかけになりました。」など、貴重な意見をいただきました。



B 「あきないね。こんな感じで研修研究部の一日は過ぎてゆく…これからもよろしくお願ひしませうOSAKA!

A B A 「あああ〜〜!!!（まだ続けるのか〜）」

B A B 「そこは、SOGANE〜なんじゃ?」

A 「そっだよな〜」

B A B 「ちよっと〜Bさん何か言ってます!」

A 「そりゃないやろ〜Aさん。さすがに山〇郎の曲で、第4ヒルの前に並ぶなんてムードないわ〜」

A 「モしかして、年末も、クリ〇〇スなんだらとか、流行りに乗ったり? 男女のワークワークに便乗とか?」

B 「……。」

A 「あのAさん、時代がちよっと…わかんないです」

B A 「マジっす、バレンタインもあつたりするんですよ?」

B A 「えっ!?バレンタイン〇ッス? 懐かしいなあ…」

B A 「マジっす、バレンタインもあつたりするんですよ?」

B A B 「去年から、ハロウィンジャンボ宝くじに名前が変わってますが…」

A B 「…マジか」

B A B 「マジっす、バレンタインもあつたりするんですよ?」

A B 「はいっご一緒!! 秋に発売! オータムジャンボ宝くじ!!」

A B A B 「あぁ〜Aさん! ストップ!」

A B A B 「なんや!!」

A B A B 「去年から、ハロウィンジャンボ宝くじに名前が変わってますが…」

A B A B 「秋に発売! オータムジャンボ宝くじ!」

A B A B 「ちよっと、Aさん…」

A B A B 「はいっご一緒!! 秋に発売! オータムジャンボ宝くじ!!」

A B A B 「あぁ〜Aさん! ストップ!」

A B A B 「なんや!!」

A B A B 「去年から、ハロウィンジャンボ宝くじに名前が変わってますが…」

ゆめやまおたこ

都市政策フォーラムが開催されました!!

8月7日(火)、マッセOSAKAにて都市政策フォーラム「都市ガバナンスの公民連携～まちづくりに生きる文化芸術～」が公益財団法人日本都市センター主催で開催されました。

公民連携は、自治体が持続的な公共サービスを提供していくためにもますます重要となっており、自治体はその手法について模索しています。近年では、文化芸術はまちづくりの一端を担うとされ、アートフェスティバルが各地で開催されていますが、こうした文化芸術振興分野においても、多様な公民連携が広がりを見せています。本フォーラムでは、事例を交えながら文化芸術を通じた公民連携のあり方について講義がなされました。



○登壇者：工藤 裕子氏(中央大学法学部教授)、松本 茂章氏(静岡文化芸術大学・大学院文化政策研究科教授)
藤野 一夫氏(神戸大学大学院国際文化学研究科教授)、小西 砂千夫氏(関西学院大学大学院経済学研究科・人間福祉学部教授)、
大西 秀人氏(公益財団法人日本都市センター理事長・高松市長)

復活連載コーナー 約20年の時^{とき}空を超え、修業僧リターン!



7月5日内外情勢調査会大阪支部7月例会「次の震災について本当のことを話してみよう。」(講師 名古屋大学減災連携研究センター長 福和 伸夫)を聴いてきました!の巻。。

研修研究部 乾 貴久

災害には、あきらめる災害と防災減災で克服できる災害がある。
太陽や地球ができて約46億年、日本では7千3百年前に鬼界カルデラ噴火が起り、この噴火が起れば日本は壊滅、我々日本人としては諦めるしかないそうです。しかしながら、300年前の富士山噴火や70数年前の南海トラフ地震は、我々の生活スタイルを変えれば被害を減らし、乗り越えられる。今回のセミナーの副題にもある「見たくないことも直視し震災を克服」すること、それぞれが重要課題です。南海トラフ巨大地震、この発生は避けることはできません。そして、本気で対策をしなければ我が国は衰退の道を辿ります。そうならないように、本当のことを本音で話しにくいこの現代社会の我々一人一人が人任せにせず、俯瞰的に考えていく必要があります。「見たくないものは見えない、見たいものが見える」、災害はそんな都合の良いものでは決してないということ。近い将来起こるであろう南海トラフ巨大地震による予測犠牲者は32万3千人。東日本大震災の20倍、これは決して過大な予測ではないそうです。国全体を衰退させる災害になるかもしれない。しかしながら、乗り越えることができる災害でもある。愛知県ではトヨタ自動車を巻き込み、巨大地図とプロジェクションマッピングを利用して地震の揺れや津波の想定シュミレーションを用い、県内市町村長や危機管理のトップが一同に会したワークショップなどで課題を焙り出すなど、活発な動きを見せています。地震の危険を知れば、「君子危うきに近寄らず」と危険を避けることができ、自分の弱さを知れば、「転ばぬ先の杖」と備えの対策ができ、そうすれば「備えあれば憂いなし」で、地震を乗り越えられる。さらに一歩進めれば、互いに助け合う素晴らしい社会をつくることができ、「災い転じて福となす」ことにつながります。これはいずれも温故知新、意識さえ変えれば、最新の科学技術で災害を乗り越えられるはずだと先生は語ります。さあ、大阪府内の市町村職員のみなさん、来るべきこの国難にどう向き合いますか。福和先生が語られたように、歴史に学び、素直な気持ちで少し疑問を持ちながら、過去を通して今の社会を見つめませんか。その上で、次世代にバトンタッチする方策を考える必要があるかもしれませんね。

さあ〜て、ま〜だまだマッセで真面目な修行は続きますヨッ! クーちゃん!



研修 日本縦断!

全国の特徴ある職員研修を随時紹介します。



第12回
福岡県市町村職員研修所



研修所の沿革・運営等

福岡県市町村職員研修所は、一部事務組合の福岡県自治振興組合が運営しています（県内全60市町村で構成）。昭和63年4月に宿泊施設等を備えた研修所として建設され、福岡県職員研修所と併設した形態で運営しています。四王寺山のふもとの緑豊かな場所に建っており、研修生がリラックスして受講できるのも魅力になっています。

今年の
ホークス・スローガン
「もう一頂!」



研修所メンバー全員集合!

本年度の研修から

2つの研修をご紹介します。一つは、「採用試験面接官の面接力アップ研修」です。この研修は「人材育成の入り口は採用試験から」との考えをもとに、採用試験に関する助言・相談を専門家に依頼しました。参加自治体間で現状や課題を意見交換する中で、より良い人材を見極めるためには、面接試験における面接官の重要性が改めて浮き彫りになり、面接官のレベルアップを目的とした研修開催の運びになりました。この記事が出る頃に第1回目が開催されます。さて、結果はいかに!?



研修所風景



もう一つは、「先進地視察研究〈四王寺塾〉」です。各市町村に公募したテーマを絞り込み、これに集まった塾生（市町村職員）が主体的に視察先を選定し、そして視察後には報告会を行うものです。この四王寺塾では、講師から視察スキルを中心に、報告・プレゼンテーションの技術等も学びます。その内容の中で特に力点が置かれるのが、「視察においては、事業の結果だけではなく、公にされていないプロセスを引き出すことが重要」との考えです。視察目的、調査対象、質問事項・方法、収集しておく資料等準備の必要性を学び、実体験を通して今後活用すべきスキルを身につけていきます。参加した塾生の声から「生の情報に触れる。このことがいかに重要で、大切なことであるかを知ることができました。」との評価をいただいています。

顔の見える研修所を目指して

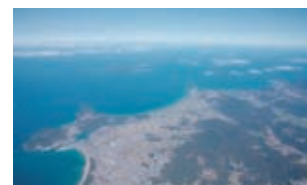
当研修所では、県内全市町村を訪問する「市町村訪問事業」を行っています。直接市町村の研修担当課を訪問して人材育成の課題や当研修所に対する意見・要望などを聞かせてもらいながら、顔の見える研修所を目指しています。始めた頃は、相手方が何を目的に訪問するのか半信半疑で身構えられることもありましたが、今では、お互いにリラックスして情報交換ができるまでになりました。



水城跡

さいごに

福岡と言えば、ラーメン・もつ鍋…というイメージでしょうか? 今回は「歴史ロマンの福岡」を紹介します。当研修所の近くには、国指定特別史跡の「大宰府政庁跡」、これを敵から守るための土塁「水城跡」、そして「大野城跡」があります。全国4か所ある国立博物館の1つである「九州国立博物館」もあります。また、県内には、世界文化遺産の「神宿る島 宗像・沖ノ島と関連遺跡群」と「明治日本の産業革命 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」（8県に点在）があり、歴史遺産の視点からも興味深い福岡へ是非お越しください。



沖ノ島 遺跡群全景



九州国立博物館

シリーズ バトンタッチ

第173回

研修担当課の皆さんが、次々に仲間を紹介し、ネットワークを広げます。今回は、**阪南市の芝野さん**からのご紹介で…



富田林市人事課 坂口 恵里 さん

◆富田林市イメージキャラクター「とっぴー」と一緒に

阪南市の芝野さんよりバトンを受けました、富田林市人事課の坂口と申します。

平成27年4月に人事課へ異動し研修を担当しています。

本市では、平成29年4月に「人材育成基本方針 改訂版」を策定し、『みんなで考え連携・協働し、行動する職員』というめざすべき職員像の実現に向けて人材育成を進めています。

研修は受講直後の学んだ事への理解や業務に活かすための高いモチベーションをその時だけでなく、いかに継続させるか、そしてより多くの職員に研修を受講してもらうかが課題だと考えています。そのために平成28年度から、前月に行った研修内容やアンケート結果などをまとめた「研修だより」を毎月作成し周知しています。

研修内容を再度思い出し業務に活かしてもらう、そして研修に興味を持ってもらいより多くの職員に受講してもらうためにこれからも創意工夫をしていきたいと考えています。

最後になりましたが、マッセOSAKAの皆様及び府内市町村研修担当の皆様には、いつもお世話になり、ありがとうございます。この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

次回は、藤井寺市の吉川さんです！吉川さん、どうぞよろしくお願いいたします。

次回は、【藤井寺市の吉川さん】にバトンタッチ！

お知らせしマッセ

☆☆各種セミナー開催のご案内☆☆

◆マレーシア国別研修「LEP2.0中間管理職のための指導教育」への大阪府市町村職員派遣について

「マレーシアの事例から誰もが働きやすい職場づくりを考える」

日時：（一般職編）平成30年10月29日（月）
（管理職編）平成30年12月10日（月）

会場：マッセOSAKA 5階 第1研修室

講師：近畿大学経営学部
教授 中谷 常二氏

詳細は決定次第、ご案内しております。



ハロウィンジャンボ宝くじの購入は、大阪府内でお願ひします！

●発売期間：10月1日（月）～10月23日（火）

一等・前後賞合わせて **5億円!!**

ハロウィンジャンボ宝くじの収益金は、市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。ぜひ、大阪府内でお買い求めください。

今年の秋も
ジャンボな夢を！

